

特集：2005年度日本数学会出版賞受賞者のことば

亀井哲次郎氏

出版賞をありがとうございました

このたびは新設されたばかりの出版賞に選んでいただき、ほんとうにありがとうございました。心より御礼申し上げます。

「長く数学の雑誌と書籍の編集に携わってきた」ということで頂戴した賞ですが、まだまだ若いつもりの私としては、日本数学会の皆様から「これからも良い本を作るように」との励ましをいただいたと解釈して、微力を尽くしてまいりたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

旧知の記者・内村直之さん（朝日新聞科学部）が、著者だけでなく編集者をも対象にした出版賞はたいへん珍しいと、「ひと」欄に取り上げてくださったおかげで、思いもかけぬ人々たちからお祝いの言葉を頂戴し、大いに感激した次第です。

ところで、その新聞記事を見たという愛知県在住の方から突然電話をもらいました。その方は理工系の学部を出て、この春までさる企業で工場長を勤めて定年を迎えられたばかりだとか。時間に余裕ができたので、念願だった数学の勉強を始めたい、ついては何か良い本を推薦してもらえないか、というご相談でした。数学は好きだったけれど、大学時代には特に数学的な訓練を積んだわけではなかったもので、定義・定理・証明……という本格的な数学書よりも、まずは読みやすい手頃なものを、とのリクエストでした。

いろいろお話を伺い、すこし時間をいただいて、二三日後に手紙で3冊ほど紹介したのですが、この経験はいろいろなことを考えさせてくれました。

いわゆる団塊の世代がこれからどんどん定年を迎えるわけですが、この世代はたくさんの本を読んできた世代です（私が編集者になったころは、ちょっとオーバーに言えば、本は出せば売れた時代でした）。さまざまな人生経験を積み重ね、旺盛な知的好奇心をもった世代といつてよいでしょう。そのような“おとな”の知的要求に十分に応えられる数学書というのは、はたしてどんな本なのか。これからの仕事の課題の1つです。

そして、もちろん若い世代のための新しい数学書の創出も、大きな課題です。すべきことがたくさんありそうで、私にはなかなか明確に見えてきません。ぜひ皆様のお知恵やお力をお貸しください。

亀井哲治郎（編集者、亀書房）